

自分の人権感覚を見直してみよう

ステレオタイプとは？

私たちの意識の中には、誰しも少なからず「決めつけ」をしていることがあります。

右の会話を聞いて、何か気になることを感じましたか。

よく「血液型がA型の人ばかりきょうめん」とか、「大阪の人ばかりせっかち」などと言われますが、A型の人の中にはいろんなタイプの人がいますし、もちろん大阪人の中にもいろんな人がいることは皆さんも御存じのとおりです。

ある物事や集団に対して一面的なイメージを持ってしまう。例えば、皆さんの中でも血液型、出身地、男女、年代（世代）、国などに対して、それぞれ一定のイメージを持っていると思いますが、ステレオタイプとは、そのイメージだけで決めつけてしまう、固定観念にこだわり過ぎてしまう考え方のことを言います。

しかし、こうした当たり前のこともステレオタイプの考え方にこだわってしまうと、正しい判断ができなくなってしまいます。ある一面的なイメージだけで物事を単純化し、真実を見極めようとせず、何の合理的な理由もなしに偏見を持ったり、差別を生むことにつながる恐れがあります。

人にはそれぞれに多様な個性があります。自分以外の人と豊かな関係を築いていくためには、初めからステレオタイプのイメージで決めつけるのではなく、合理的、客観的な判断ができるよう、対話や交流を通してその人自身の個性を見付けだし、お互いの人権を尊重し認め合うことが大切です。

- ：「ねえねえ○○ちゃん、血液型、何型？」
○：「何型に見えるう？」
□：「う～ん、几帳面だからA型かなあ？」
○：「当たり前！ □ちゃんは何型？」
□：「私も同じA型よ。だから私たちって気が合うのよねえ」
○：「そうよね。ほかの血液型の人って、やっぱり話が合わないよねえ」

まなざしをかえる

ステレオタイプにとらわれないとは、今までとはちょっと見方を変えるということです。そのことを、私たちに教えてくれるのが、金子みすゞさんの「大漁」という詩です。矢崎節夫さんは、こう解説しています。

みすゞさんの『大漁』に出会うまで、私は「私と鰯」というまなざしで生きてきた、そんな気がします。



しかし、『大漁』の中の「鰯のとむらい するだろう」を読んだとき、私のまなざしは「私と鰯」から「鰯と私」に変えられたのでした。私自身、生きていたのではなく、生かされていたのです。私にかわってくれたあらゆるいのちにです。

みずゞさんのまなざしは、この世のすべての存在に対して、いつも「あなたと私」です。「私とあなた」と「あなたと私」はそれほどのちがいはないように思えますが、じつは果てしなくちがうのです。

「私とあなた」というまなざしは、自分中心、人間中心のまなざしです。なんでも自分を先にして考えてしまいますから、相手に対して「なぜ私のことをわかってくれないの」「なぜ…」と、一方的に相手を批判し、一方的に相手を攻めるのです。それがどれほど相手の人を傷つけているのかも考えずにです。

「あなたと私」はちがいます。「あなたと私」というまなざしに立ったとき、人ははじめて相手のところに ^{たす} 佇むことができるのです。

『あなたはあなたでいいの』 矢崎節夫 ポプラ社

すべての人の人権が尊重される社会をつくるためには、「自分の大切さ」と「他の人の大切さ」を認められるような人権感覚を高めることが大切なのではないのでしょうか。

次回の放送は、9月18日(水)の予定です。
お楽しみに…

お願い

ハートフルデーの放送を聞いて、生徒の皆さんの感想や、この資料をご家庭に持ち帰り、ご家族の方と話し合ったことや、ご感想などをお寄せください。

----- 切り取り線 -----

第3回ハートフルデー

()年次 (男・女)or(保護者)

提出は、ホームルーム担任まで